

平成29年度 第4回安曇野市図書館協議会 会議概要

1	審議会名	平成29年度 第4回安曇野市図書館協議会
2	日 時	平成30年2月22日 午後1時30分から午後2時30分まで
3	会 場	安曇野市穂高交流学習センター 多目的交流ホール
4	出席者	三澤会長、中村委員、山田委員、樋口委員、望月委員、田村委員、銭形委員、川名委員
5	市側出席者	丸山図書館交流課長兼中央図書館長、青柳豊科図書館長、遠藤三郷図書館長、百瀬堀金図書館長、小笠原明科図書館長、細田課長補佐、奈良澤副主幹、沖副主幹
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	1 人 記者 1 人
8	会議概要作成年月日	平成30年3月1日

○会議の概要

- 1 開会 (丸山課長)
- 2 あいさつ (三澤会長)
- 3 協議・説明
 - (1) 第2次安曇野市図書館基本計画策定について
 - (2) 平成30年度安曇野市図書館事業計画(案)について
- 4 その他
 - (1) 三郷交流学習センター開館について

3 協議・説明概要

- (1) 第2次安曇野市図書館基本計画策定について

議長 それでは、第二次安曇野市図書館基本計画策定について、事務局より説明をお願いいたします。

事務局 前回、図書館協議会でいただいたご意見を踏まえ、若干案を修正しまして、12月26日から1月24日までの30日間、パブリックコメントをさせていただきました。パブリックコメントにつきまして意見等ご提出いただいた方がお一人、意見数は4件となりました。

いただいたご意見について、まず、市民との協働により、市民ニーズに沿った図書館運営、運営状況の点検評価、標準的な所蔵図書、また地域に根差した図書館、図書の資料の充実について期待するというご意見です。これにつきましては、ご期待に沿えるように、計画に沿って着実に進めていきたいと記述をしました。

「図書館活動の周知」は、中学生議会での提言の具体化を望むというご意見です。この中学生議会の中で、図書館に対しては、図書館を多くの人に利用してもらうために、いろいろな種類のパンフレットの作成や学校の勉強に合わせた資料をふやしてほしいというご提案をいただきました。

図書館で作成した年代別のブックリストを学校へ配布、毎月発行の図書館だよりの小中学生版の作成も考えて

いきたい、また、学校調べ学習用図書の充実や学校配本事業もしています。より学校と連携を深めて、小中学生にもっと利用していただける図書館づくりをしていきたいと考えているというご回答にしました。

続きまして、レファレンスサービスの充実に最も効果のあるのは実務研修であるのご意見でございます。利用者からのご要望にお応えすることで得られるスキルアップ、またその際のオンショブトレーニング、得られた知識の職員間の共有は私どもも大切なことだと考えております。また、レファレンスを周知させることの具体的な方策が不明とのご意見です。利用者へ便利なもの、また利用したいと思っていただけるのが一番かと思えます。具体的な方策につきましては、毎年策定する事業計画で少しでも取り組んでいきたいと考えています。

続いて、地域の教育力を高める活動の推進についてのご提言です。学校図書館司書部会との連携はもとより、教育委員会の事務局内でどのような取り組みができるか検討していきたいと考えております。

次に、関係部署との情報共有を行いながら、図書館を市などの職員にもっと知ってもらったり、利用していただいたりするよう努めていきたいと思っています。

また、基本計画の主な変更点は、2つあります。

まず一つは本市の公文書中の年号表記につきましては、和暦を用いることを原則としています。しかし、昭和天皇のご退位に伴い、来年には改元が行われる見込みです。ついては、計画書本文について西暦を括弧書きで併記させていただきました。

もう一つは「調査・研究の支援」につきましては、パブリックコメントの考えのとおり修正をしました。

今後の計画の策定ですが、本日ここでいただいたご意見を反映させて、庁内の会議を経まして、3月の教育委員会の定例会でご協議いただいて計画としていく予定になっています。

議長 では、ここでご意見、ご質問などございましたらお受けしたいと思います。

委員 「図書館の利用に障がいのある方々の障がいの除去」とありますが、5ページには「図書館の利用に障がいのある方々への支援」とあるんですが、その違いは。

事務局 違いですが、5ページのほうは、第二次計画の計画に沿って書いてありますので、第一次計画では障がい者支援という形で書かれていましたので、「支援」とさせていただきます。

議長 よろしいですか。

委員 はい。

委員 国立国会図書館や県立図書館など、他の図書館から取り寄せるサービスですが、とてもいいことだと思いますが、これをどのように市民の方々に浸透させていくのか。また、レファレンスサービスに関して、ある会合で「レファレンスサービスを知っていますか」と聞いたら、誰も知りませんでした。いいことをすることはいいと思いますが、市民の方々にいかに分かりやすく周知していくかが大事だと思います。

議長 ほかはよろしいですか。それでは、第二次の図書館基本計画策定について、了承したということでよろしい

ですか。ありがとうございました。

(2) 平成30年度安曇野市図書館事業計画（案）について

議長 それでは、次に、平成30年度安曇野市図書館事業計画についてお願いします。

事務局 平成30年度安曇野市図書館事業計画（案）につきまして、前回12月に各館長からご説明をさせていただきましたが、基本計画に沿った形で、もう少しわかりやすく具体的に記載をさせていただきました。

全体の事業計画ですが、関連する事業項目をまとめ、見やすく体裁を整えました。

先ほど委員さんからご指摘をいただきましたレファレンスサービスのところです。多くの方に図書館を利用していただくような施策を今後考えていきたいと思えます。図書館だよりの中でもレファレンスの情報等も周知・PRをしていきたいと思っております。

図書館講演会ということで、窪島誠一郎さんをお呼びして講演会を開催する予定です。また、図書館フェスタ講演会には、絵本作家の山口マオさんをお呼びして開催する予定です。

学校連携事業で、子どもはもちろん、学校図書館との司書との連携も大切ということで、追記をしました。

以降は、各図書館での事業内容となっております。期日などの日程や内容等が決定した箇所を修正しました。

以上、私のほうから事業計画案のほうを報告させていただきます。よろしくお願いします。

議長 ありがとうございました。30年度の事業計画は12月の図書館協議会の後、日程・内容等を詰めていただいて、よりはっきりしたということです。事業計画についてご質問、ご意見ございましたらお願いをいたします。

委員 高齢者が社会参加、社会貢献というそのような視点から、時間に余裕がある方もいらっしゃると思えますので、私も含めてこの高齢者ということにやっぱり重きを置いて事業をしていく必要があるかなと感じます。

それと、当然子どもたちはもちろん、外国の方々にも図書館を利用していただく方策も必要だと感じます。

議長 そういうご意見ということで、聞いていただけたらと思います。ほかにはいかがですか。

委員 先ほど図書館基本計画の中の蔵書数の推移というのを見て、新しく三郷図書館ができますが、一体どのくらいの本が入るのか、また、他館はどうなのか、もし分かれば教えていただきたいと思えます。

事務局 図書資料の収集ということで、選書については、各図書館の特色だとか、そういった色というところもやはり図書の内容によって出てくると思えます。その辺は市内の5つの図書館でバランスよく選書をして、利用者の方に提供できるような資料を購入していく必要があります。各図書館で選書会を開いておりますし、全体でも選書会を開きながら、ニーズに合った、また利用者層を見ながら選書をしていくということは大事だと思えます。

三郷図書館ですが、開館時は4万冊ちょっとの蔵書を予定しています。今後32年度まで順次本をそろえて、予定蔵書冊数の53,000冊をそろえていく計画です。一度に本をそろえてしまうと、やはりバランスがどうしても偏

ってしまうということがありますので、年度ごとにその年に合った選書をしていながら、最終的な蔵書冊数を
目指して今後購入をしていきます。

各館の昨年の購入数ですが、中央図書館は、受け入れが全体で7,686冊、内購入が6,545冊、豊科は、受け入れ
が3,119冊で、内購入が2,387冊、三郷は、受け入れが4,598冊で、内購入が4,221冊、堀金は、4,556冊受け入れ
で、内購入が3,742冊、明科は、受け入れが1,338冊で、内購入が995冊。大体決算ベースでは、図書購入費は、
大体通常分で2,500万円、三郷、堀金分で1,200万円ぐらい購入しています。

議長 ほかにいかがでしょうか。

委員 質問ですが、基本計画の資料編で、上位公立図書館と安曇野市図書館というところの比較がありますが、上
位図書館がどこなのかはわかりますか。

事務局 上位図書館というのは、「これからの図書館在り方検討会議報告書」に出てくるところで、貸し出し数が
上位10%の図書館の平均値ということになっています。

委員 比較をしながら気になったところが、専任職員数が上位図書館の10.5人に対して安曇野市が4人で半分以下、
非常勤・臨時職員数については、上位図書館が18.4人で安曇野市が32人で、上位図書館に比べると安曇野市は専
任職員数が半分以下で、非常勤の方がすごく多い。今後の安曇野市の方針をお聞かせください。

事務局 これは、何とも申し上げようがないところですが、人的資源、予算、これをいかに出していくかというの
は、私どもの仕事だと思っています。利用者の方に喜んでいただけるような図書館を目指すためには何が必要か
というについて考えていきたいと思います。

委員 基本計画の中の「地域の教育力を高める」で、生きる力とは何だろうということを、安曇野市で共有してお
かないと思います。安曇野市の子どもに何が欠けていて、そして、どんな力をどんなふうにつけていくか、その
ためにどんな内容が必要かということを図書館で明確に出していくことが必要かと思っています。

また、今の日本を見ると、子どもたちは大人とかかわるような、または年上というか、青年とかかわる機会が
少ないと思いますので、ぜひ図書館のほうでも講座だとか活動に取り入れていくことも大事かと思っています。

事務局 生きる力というのは、今現在策定しています市の総合計画でも「学び合い人と文化を育むまち」という中
で、「子どもが健やかに育つまちを目指して、子どもたちの生きる力や豊かな感性を育むまちをつくっていきま
しょう」という、市全体の目標にしているところです。教育委員会では、昨年から安曇野市が目指す教育と各校
の取り組みということで、「からだを動かし、頭で考え、心に感ずる、たくましい安曇野の子ども」というのを
教育委員会全体の目標として掲げまして、その中で図書館は何ができるかというのを、委員も言われるように、
全体で考えていきたいと思っています。

議長 ほかにいかがですか。

委員 職員研修ですが、今年度の研修内容について教えてください。

事務局 全体で職員研修を年2回行っています。1回目は図書館の職員が知識を深めるという研修、もう一つは実務的な研修ということで分けています。レファレンスに生かせるようにということで、去年は三郷地域について研修し、来年度は明科の地域について研修する予定です。もう一回は、実務的な図書館のシステムについての研修を予定しています。

委員 説明の中で、地域のことということですが、郷土についてのレファレンスはたくさんあるのでしょうか。

事務局 レファレンスの中で、郷土についての問い合わせもあり、職員として広く浅く、しっかり地域のことについてはお答えできるようにということで研修をしています。

委員 長野県の子どもの自殺や不登校の数、相談の数も多いと聞きました。ある研修に行ったら、安曇野から逃げてくる人がとても多いということを知りました。それで全国の図書館、東京とか塩尻とかを見ていると、子どもの居場所的な役割が図書館にあるなど、そういうのを意識してつくっている図書館は結構多いです。安曇野の子どもたちは、学校と家庭以外の居場所がどこにあるのかと思うくらい少ないと感じます。その受け皿として、そういうことを考えて図書館をつくっている地域もあります。安曇野の現状を考えると、そういう場所、今後必要だと感じました。

議長 そういうこともまた考えてもらえればいいかなと思います。今言われるようなところを、図書館をはじめ、いろんな施設で、ぜひ考えていただければと思います。

議長 では、特になければ、30年度の図書館事業計画について、了承したということで進めさせていただきます。

4 その他

(1) 三郷交流学習センター開館について

議長 三郷交流学習センター開館についてお願いします。

事務局 三郷交流学習センター「ゆりのき」が、いよいよ来月の3月10日オープンという運びになりました。現在、図書館の図書の搬入が終わり、蔵書点検も終わりました。これから案内の標識などを整備して、3月10日の開館を迎えたいと思っています。今、委員さんから言われたように、子どもたちにとっていい居場所になれるような施設になっていければと思います。「ゆりのき」は小中学校、また公民館、支所ということで、非常に公共施設が隣接している場所でもあります。そういったことを担える施設になるように、今後事業を進めていきたいと思っています。

議長 無いようでしたら、第4回図書館協議会を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

以上